国連大学におけるESDの取り組み

グローバルなシンクタンクであり教育機関でもある国連大学は、特性あるアプローチにより、
ESD の推進の一翼を担っている。国際レベルから地域レベルにおよぶ多様な視点とネットワークを活かした
さまざまな ESD の普及・推進事業について紹介する。

文：国連大学サスティナビリティ高等研究所 プログラム・アソシエイト　横井彩

グローバルと地域、両軸を活かして

国連大学は、人類の生存、開発、福祉など、緊急性の高い地球規模課題の解決と持続可能な未来の構築を目指して、政策対応型の研究と能力育成を実施している。2005年に始まったESDの10年では、UNESCOをはじめとする国際機関や各国政府と協力しながら国際レベルでの議論やプロセスに貢献するとともに、地域レベルにおいても自治体、高等教育機関、学校、NGO、企業等と協力し、ESDの活動を推進してきた。

RCE（Regional Centres of Expertise on ESD、ESDに関する地域の拠点）は、持続可能な開発のためのグローバルな学習の場の構築を地域レベルで実現する手段として国連大学が提唱したもので、高等教育機関、NGO、自治体、民間セクターなど、地域のESD実践者の連携・協力を促進する対話の場として、2014年7月現在、世界129地域が認定されている。日本国内では、仙台広域圏、横浜、中部、兵庫―神戸、岡山、北九州において、地域のさまざまな課題に対する地域の多様性を尊重した持続可能な社会づくりのための取り組みが進行中だ。2008年に発足したProSPER.NET（Promotion of Sustainability in Postgraduate Education and Research、アジア太平洋環境大学院ネットワーク）においては、大学院の講座やカリキュラムにサステイナビリティを組み入れるなど高等教育機関におけるESD活動の強化を推進しており、2014年7月現在、32の大学院が加盟している。また、アフリカの高等教育機関におけるESDに特化したプログラムとして、持続可能な開発の課題に取り組む次世代の専門家育成を目指し、アフリカ・日本・北欧の高等教育機関、UNESCO、UNEP、UN-HABITAT等と連携し、アフリカの8大学において修士課程プログラムを実施している。ほかにも、環境省と共同で運営する地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）での活動を通じて、国内外の市民社会に向けたESDに関する情報提供や、ESDも含めた持続可能な社会づくりに関するパートナーシップ形成を進めている。

インド・デリーにおける「Youth Unite for Voluntary Action (YUVA Meet)」の様子　©UNU-IAS

この先の 10 年に向けて

今年11月の「ESDに関するユネスコ世界会議」の開催にあわせ、11月4日～12日は「ESDウィーク」とされ、国内でESDに関するさまざまな会議やイベントの開催が予定されている。国連大学は、グローバルRCE会議（11月4日～7日、岡山市）、「持続可能な開発のための高等教育に関する国際会議：2014年以降の高等教育のあり方」（11月9日、名古屋市）、ESD世界会議に平行して開催されるワークショップやセミナーなどを通し、ESDの取り組みのさらなる発展・深化に貢献したいと考えている。

2014年でESDの10年はひとつの区切りを迎えることになるが、その後継プログラムとして「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム」（GAP）がESDの10年の主導機関であるユネスコにより策定され、11月のESD世界会議で公式発表される。GAPでは、政策の推進、学習及び研修環境の転換、教員と指導者の能力開発、若者への支援、地域レベルにおけるESD活動の促進、という5つの優先行動分野に焦点があてられる。国連大学でも、政策に直結する研究を実施するシンクタンクとして、政策の推進に貢献するとともに、RCEやProSPER.NETの取り組みを通じて、地域レベルでのESD活動や、学習環境の転換を促し、2014年以降も世界全体のESD活動の推進に貢献していく予定だ。

2014年のESDの10年の終了に続き、2015年にはミレニアム開発目標が達成期限を迎えるなど、持続可能な開発をめぐる議論は今後ますます活発に展開されることになる。ポスト2015年開発アジェンダや持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals、SDGs）の策定の議論にも、国連大学は積極的に参画しており、持続可能な開発に関する国際的な議論を踏まえ、今後も一層ESDを普及推進していく。